

テーマ投稿

1月号のテーマ「喫茶店の思い出」

喫茶店の思い出

中村区しらこ会

吉田 秀夫

高校時代にドキドキしながら入った喫茶店。何を注文したら良いかわからず、友達が、レモンスカッシュをたのみ、自分も同じものを…。「レスカ」という言葉覚え、カッコいいと思って使っていました。

社会人になって仕事終わりに立ち寄った店では、名

コーヒーと私

中川区第東部長寿会

藤田みち子

私は入れたてのコーヒーの香りが大好きでした。でも飲むのは紅茶。夫はコーヒー党。1日に何杯も楽しそうに飲んでいました。



ある時実家の母が遊びに来た。「この家は男の人がコーヒーを入れるの?」「男子厨房に入らず」の時代に生きた母は、私がいばっているのか、怠けているのか、とても不思議だった

古屋名物鉄板に卵をしいたナポリタン。それも「イタスパ」と呼び、タバスコと粉チーズをたっぷりかけて友達と食べるのは、最高でした。最近では、なつかし



らしい。

夫が急に旅立った後は、コーヒーがたくさん残されていた。これは私に「飲みなさい」と言われているようで、朝食をパンに切り替えた生活に、コーヒーが香り始めた。夫が楽しんでいたように、毎朝入れたてのコーヒーを飲むことにした。不思議。味がだんだん分かるようになってきた。おいしい!! 子供や孫が来たときにも「どう?」と言えるようになった。夫が残してくれたコーヒーが私の好みを変えたのかと思う。今では、家でたてるコーヒーは、どの店よりもおいしいと感じるようになった。1人になって16年。これからも新しいことを見つけ、楽しい生活を続けたい。

ウエートレスと女子会

守山区吉祥会

石黒紀美子

私が中学3年の春、父が当時不治の病だった脳腫瘍で亡くなった。一度は断念した高校進学が、母子家庭奨学金で、県立の某高校に入学できた。とは言え、1

夏休みに、やむなく学校で禁じられている喫茶店で日給100円のウエートレスで学費を稼いだ。喫茶店

喫茶店の思い出

守山区白沢シテアクラブ

岸上 誠子

「喫茶店の思い出」といえば、歌声喫茶です。戦後も少し落ち着き、大人たちの努力のおかげで、なんとか生活にも明るさが戻り、戦中派の私たちも青春期となった頃、喫茶店といえは、歌声喫茶でした。皆と一緒に大いに楽しみながら唄いました。ロシア民謡が特に盛んでした。通うたびに顔見知りとなり、肩を組んで声を限りに唄ったものです。

に出入りしたことのない私は、お客さまの注文に応じられず、失敗の連日だった。「アイス!」の一言にアイスクリームの田舎者の私。怒りよりも失笑された。帰りに頂く、当時一世を風靡したアメリカンフットクリームを持ち帰り、妹や弟と味わった。後に銀行員として社会人の仲間入りをして、同僚と半ドン!の土曜日に喫茶店でくつろいだ。でも、コーヒーではなくあんみつで女子会を楽しんだ。老界の今、やっと喫茶店で夫とコーヒーで憩いの幸せタイムを…。

ロシア民謡はもちろん、いろんな国の歌曲を覚え、老いた今も立派に通じる歌ばかりで、それが自慢です。

高齢者が増えた今、歌声喫茶がまたはやりだしているようで、懐かしさうれしく、いろんな所へ出掛け参加しています。

大声出して唄うのも楽しいですよ。皆さまもごぞぞ、お出掛けください!! 残り少ない人生、明るく大いに楽しみましょう!



読者の声

★毎号楽しみに見えています。自分ではできないけれど、文芸コーナー大好きです。今後

- ★ウォーキング大会や読者の声が出来て手に取りました。心に残る言葉があり、うれしかったです。これからも、楽しいこといっぱい載せてください。(中川区 O)

次号テーマ「昭和の日・昭和の思い出」

「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「昭和の日・昭和の思い出」です。皆さんが青春を謳歌された昭和時代。さまざまな思い出の中でも特に印象に残っている出来事について、どしどしご投稿ください。

ハマザキマザック美術館 春の所蔵品展

ロココからエコール・ド・パリまでの絵画や、エミール・ガレに代表されるアル・ヌーヴォーのガラス工芸、家具など、フランス美術300年が一望できる作品が一堂に会します。約160点の主要なコレクションをご鑑賞いただけます。

- 会期 2018年3月1日(木)~4月15日(日)
- 開館時間 平日:10時~17時30分 土・日・祝:10時~17時
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、展示替期間(2/26~2/28)
- 入館料 一般1,000円(10名様以上800円) 他 ※音声ガイド無料サービス有
- アクセス 愛知県名古屋市東区葵一丁目19-30 地下鉄東山線「新栄町」駅(1番出口)直結
- その他 ☎052-937-3737 Web: http://www.mazak-art.com

入館料 100円引き

点線を切り取り、美術館受付にてご提示ください。 ※本券ご持参の方を含む5名まで有効 ※コピー不可/その他の割引との併用不可 お問い合わせ: ヤマザキマザック美術館



ジャン・オノレ・フラゴナール 《キューピッドのささやき》 1776-77年